

島、渡瀬兩教授指導のもとに分類學的方面的研究を試みたる者の一部にして、本邦に於て如何なる種類が存在するか、並に其の分布の狀態の如何を説くに止まる、其詳細に至りては項を追ひて述ぶる所ある可きなり。

此の研究に際して供したる材料は予の東京附近、岐阜、近江、京都、大阪、山口、豊前、熊本并に鹿兒島縣下其他に採集せる者あるも、學友諸氏の諸地に採る所亦甚多し、小熊揮氏の北海道に、守田豐藏氏の日光に、中村正雄氏の越後に、千野光茂氏の信濃に、福田卓氏の姫路并に鹿兒島縣下に、新渡戸稻雄氏の臺灣に採りて送られたる者の如き其の甚だ多き者なり。其他の各地より送られたる者亦少しとせす。

茲に本編を記すに際して常に懇篤なる指導を給ひし飯島、渡瀬兩教授に厚き感謝の意を表すると同時に、圖書に標本に多くの便宜を與へられたる中川久知、三宅恒方其他の先輩學友の友情を深謝す。

二、本邦産蟻類研究の歴史

蟻類研究の歴史は今茲に述べず、唯本邦産種に就きて研究されたる事蹟を略記し置く事となさんとす。

初めて本邦の蟻類が學界に公にせられたるは一八六六年の事なり、此年露の Motschulsky 氏 Formica japonica (Bull. Soc. natural Moscou, XXXIX.) を Mayr 氏 Camponotus japonicus (Verh. zool. bot. Ges. Wien, XVI.)

を公けにしぬ、前者は永く學者の顧みる所とならざりしが近時 Emery によりて復活する所となれり。

一八七四年久しく本邦にあり甲蟲を採集したりし Lewis の採品によりて大英博物館の F. Smith は蟻十四種を記せり、内十種を新種とせり (Trans. Entom. Soc. London, 1874.)

一八七八年 G. Mayr は亞細亞蟻類誌を記すや邦産五品を録す、内一は新變種なり (Verh. Zool. bot. Ges. Wien.) 一八八六年 Cameron 一新種を公にす (Proc. Manchester Lit. Phil. Soc., XXV.) Forel 亦一新變種を記せり (Ann. Soc. Ent. Belgique) 同年 Mayr は大英博物館所藏の標本を研究し、曾し F. Smith が見し所の者を再檢せり。 (Verh. Zool. bot. Ges. Wien.)

一八九四年 Emery は一新變種を記せり。 (Zool. Jahrb. Abth. I. Syst. VIII.)

一九〇〇年 Forel は博士伊藤篤太郎氏の採品十六を記し新種二、新變種二を擧ぐ (Mitt. Schw. Ent. Ges. X.)

一九〇一年 Forel は博士松村松年氏送る所の者を記し三新變種を公にせり (Ann. Soc. Ent. Belg. XLV.) 又ハンブルグ博物館所藏の品を檢し三新變種を公にす。 (Mitt. Naturhist. Mus. Hamburg XVIII.) 同年 Emery

亦一新種を公にせり (Rendic. R. Acad. Sci. Ist. Bologna.)

一九〇三年 Forel は聖彼帝、博物館所藏標本を検す、内に樺太所産の品四あり。(Ann. Mus. Zool. Acad. Imper. Soc. St. Petersburg VIII.) 同年 Mandro は公使アルマン採集する所の標本を記せり。(Jull. Mus. d' Hist. Paris.) 一九〇六年に至り W. M. Wheeler は上記諸家の研究の結果を輯成し、加ふるに H. Sauter, J. H. Abbott 其他の採品を以てし、新種八、新變種二を記せり、茲に本邦産蟻類研究の基礎成れるが如きも亦議す可きもの少なからず。(Jull. Ann. Mus. Nat. Hist. XXII.)

一九〇七年 Forel は再びハンブルグ博物館の標本を検じ一新變種を記す。(Mittl. Naturhist. Mus. Hamburg.)

一九〇九年 Wheeler は Sauter 採集する所の臺灣産蟻類二十を記す、内に二新種二新變種あり、是れ實に臺灣の蟻を記録する者の初めなり。(Jull. Amer. Mus. Nat. Hist. XXIV.)

一九〇八一—一九〇九年 Emery は Deutsche Entomologische Zeitschrift 誌上に於て舊北州産蟻類誌を公にす。是は現時に於て最も完全に近き分類を記せる者にして舊日本所産の物は凡て是に含まる。

三、日本産蟻類目録

予が自ら得たる標本によりて検出せる品は五十に満たざれども、上記典籍に載録せらるる者を加ふれば日本版圖に産する蟻類は七十七種を算するを得。此他未だ細檢の

暇を有せず茲に發表し得ざる者三十に下らず、是等は他日研究の上附加する事となし、茲には唯現今迄知られ居る蟻類目録を公にせん。表中屬名のみを記して種名なきものは凡て新種を信する者にして他日記載と共に發表す可き者なり。

和名は甚だ普通にして日常接遇する事多き者のみに是を付す是れ素人觀察家の便をはかりてなり、故に多く名により實物を聯想し得べきものをとる、勿論蟲譜圖說以下の書に是を求めたれども用ゆべきもの少なきにより是を基礎として自ら制定する所なり。

Form. POLYMICHTAE. マリ科

Subfam. PONERINAE. ハリマリ亞科

1. *Symplicta watasei* Wheeler.

本島中部及西部。

2. *Lobopelta chinensis* Mayr.

日本、支那、印度。

3. *Pachycondyla (Ectonomyrax) japonica* Emery.

|| *Ectonomyrax japonicus* Emery.

對馬。

4. *Pachycondyla (Pseudoponera) sauteri* Wheeler.

本島中部。

5. *Ponera (Brachyponera) solitaria* (Smith)

|| *Ponera solitaria* F. Smith.

- オホハリアリ
本島、九州。
6. *Ponera japonica* Wheeler.
本島中部、九州(?)。
7. *Ponera coarctata* (Fabricille)
北海道、歐羅巴、亞弗利加北部、シリア。
8. *Diacamma rugosum sculptum* (Jerdon)
臺灣、印度、コンチネン、錫蘭。
Sulam. MYRMICINAE. ノタニシアリ 亞科
9. *Myrmecum granulicola nipponica* Wheeler.
本島中部。
10. *Solenopsis fugax* (Latreille.) var.
本島、九州、歐羅巴、カナカメ。
11. *Pheidole ferrida* F. Smith.
アヅマオホヅアカアリ。
北海道、本島北部及び中部。
12. *Pheidole nodus* F. Smith.
オホヅアカアリ
本島西部、四國、九州。
13. *Pheidole sauteri* Wheeler.
臺灣。
14. *Pheidole javana* Mayr.
臺灣、ハルマ、爪哇。
-
15. *Pheidole megacephala* (Fabricius.)
臺灣、ハルマ 其他兩半球の熱帶地方。
16. *Monomorium floricola* (Jerdon.)
|| *Monomorium intrudens* F. Smith.
本島、九州、印度其他熱帶地方。
17. *Monomorium nipponense* Wheeler.
本島、九州。
18. *Monomorium triviale* Wheeler.
本島(神奈川)。
19. *Monomorium latinode* Mayr.
臺灣、印度、セイロン、ハルマ、ホルネ。
20. *Monomorium destructor* (Jerdon.)
臺灣、印度、ハルマ 其他熱帶地方。
21. *Cremastogaster laboriosa* F. Smith.
|| *C. laboriosa* var. *matsumurai* Forel.
トビイロシリアゲアリ
本島、北海道。
22. *Cremastogaster sordidula* var. *osakensis* Forel.
アカシリアゲアリ
九州、本島中部及南部。
23. *Cremastogaster* sp.
九州(豊前)
24. *Cremastogaster* sp.

- 九州(薩摩)。
- 25. *Gramastogaster rogenhoferi* *Mayr.*
臺灣、印度、セイロン、フサマン、マンパ。
- 26. *Gramastogaster subunda* var. *formosae* *Wheeler.*
臺灣。
- 27. *Vollenhovia emeryi* *Wheeler.*
九州、本島中部及南部。
- 28. *Stenamma ovslovi* *Wheeler.*
本島(駿河)。
- 29. *Stenamma* (*Aphaenogaster*) *famelicum* (*F. Smith.*)
= *Ischnomyrmex famelicus* *F. Smith.*
= *Aphaenogaster famelica* *Mayr.*
アシナガアリ
九州、本島全部。
- 30. *Stenamma* (*Messor*) *aciculatum* (*F. Smith.*)
= *Aphaenogaster aciculata* *F. Smith.*
= *A. aciculatum* var. *brunneicornis* *Forel.*
クロナガアリ
九州、本島全部。
- 31. *Myrmica rubra laevinodis* *Nylander.*
北海道。
- 32. *Myrmica rubra* subsp. *lobicornis* var. *jessensis* *Forel.*
北海道、本島中部。
- 33. *Myrmica rubra* subsp. *kurokii* *Forel.*
日本。
- 34. *Leptothorax congruus* *F. Smith.*
本島(兵庫、駿河)。
- 35. *Leptothorax congruus* var. *spinosior* *Forel.*
北海道、本島(駿河)。
- 36. *Tetranorium caespitum* (*Linne.*)
トビイロミンアリ
本島、九州、歐羅巴、ミンソム。
- 37. *Pristomyrmex japonicum* *Forel.*
アシメアリ
九州、本島、北海道。
- 38. *Strumigenys godetroyi* var. *levisi* *Cameron.*
= *Strumigenys levisi* *Cameron.*
クロコアリ
九州、本島西部、印度。
- 39. *Strumigenys* sp.
本島中部。
- 40. *Triglyphothrix striatidens* *Emery.*
臺灣、印度、セイロン、フサマン、マンパ。
Subgen. **DOLICHODERINAE.** ネソアリ 亞科
- 41. *Iridomyrmex ikoii* *Forel.*
= *I. ikoii* var. *abbotti* *Wheeler.*

ルリアリ

九州、本島。

42. *Tridomyrmex glaber* (Mayr.)

臺灣、印度、バルバドス、ハイチ、セントラント。

43. *Tetramorium gibbosus* Wheeler.

本島(駿河)、神奈川、東京。

44. *Tetramorium* sp.

九州(薩摩)。

45. *Tapiroma melanocephalum* (Habricius)

臺灣、其他熱帶地方。

Subfam. CAMPONOTINÆ. ショウロ科

46. *Plagiopsis longipes* (Jordan.)

臺灣、印度、錫蘭、ハイチ。

47. *Plagiopsis mactavishi* Wheeler.

臺灣。

48. *Prenolepis flavipes* (F. Smith.)

≡ *Tapiroma flavipes* F. Smith.

アメリカアリ

北海道、本島、九州。

49. *Prenolepis longicornis* (Latreille.)

臺灣、其他熱帶地方、歐羅巴(東洋)。

50. *Lasius niger* Linné.

トコロケアリ

日本産蟻類に就て(矢野)

北海道、本島、九州、中部及北部亞細亞、歐羅巴、北部亞弗利加、北亞米利加。

51. *Lasius niger* var. *alienus* Foerster.

本島(神奈川)、中部及北部亞細亞、歐羅巴、北亞米利加。

利加。

52. *Lasius niger* subsp. *brunneus* Latreille.

本島(横濱)、北部亞細亞、歐羅巴、北亞米利加。

53. *Lasius umbratus* (Nylander.)

アメリカアリ

本島、シベリヤ、中部及南部歐羅巴、北亞米利加。

54. *Lasius flavus* subsp. *myops*. Forcl.

本島(神奈川)、歐羅巴、シベリヤ、北亞米利加。

55. *Lasius fuliginosus* (Latreille.)

シロクサアリ。

北海道、本島、九州、シベリヤ、歐羅巴。

56. *Formica sanguinea* var. *fusciceps* Emery.

アメリカアリ

北海道、本島、北部。

57. *Formica rufa* subsp. *pratensis* De Geer.

樺太、歐羅巴、北部亞細亞。

58. *Formica rufa* subsp. *truncicola* Nylander.

樺太、北部及中部歐羅巴、シベリヤ、カナダ、トルキスタン。

(422)

明治四十四年八月十五日

59. *Formica rufa truncicola* var. *Yessensis* *Forel.*
 ノンノカンチヤアリ
 北海道、ニヰリフ。
60. *Formica exsecta Nylander.* var.
 シノノカンチヤアリ
 北海道、本島中部以北。
61. *Formica fusca fusca* var. *japonica Motschulsky.*
 || *Formica japonica Motschulsky.*
 || *Formica fusca.* var. *nipponensis Forel.*
 シロノチヤアリ
 北海道、本島、四國、九州、蒙古。
62. *Camponotus herculeanus japonicus Mayr.*
 || *Camponotus japonicus Mayr.*
 || *C. herculeanus pensylvanicus* var. *japonicus Forel.*
 || *C. pensylvanicus japonicus Emery.*
 クロオホアリ
 北海道、本島、九州、支那、バルタン、フカリピン。
63. *Camponotus herculeanus* var. *sachalinensis Forel.*
樺太、ニヰリフ。
64. *Camponotus herculeanus* subsp. *ligniperdus* var. *obscuripes Mayr.*
 || *C. ligniperdus* var. *obscuripes Mayr.*
 トネノカオホアリ
-
65. 北海道、本島、九州。
Camponotus marginatus subsp. *viuosus F. Smith.*
 || *C. viuosus F. Smith.*
 本島。
66. *Camponotus marginatus* var. *quadrimaculatus Forel.*
 ヨツホシクロアリ
 本島、九州。
67. *Camponotus marginatus* var. *branni Forel.*
 本島(保津山)。
68. *Camponotus maculatus taylori* var. *formosae Wheeler.*
 臺灣。
69. *Camponotus irritans (F. Smith.)*
 臺灣、印度、サイロン、ペラト半島、ネネネ、シヤン。
70. *Camponotus doryceus (F. Smith.)*
 臺灣、モーギネン。
71. *Camponotus* sp.
 九州(熊本)。
72. *Camponotus (Colobopsis) rothneyi Forel.*
 本島、印度。
73. *Polyergus* sp.
 本島、九州。
74. *Polyrhachis lamellidens F. Smith.*
 トチアリ

本島中部及西部、四國、九州、臺灣、支那(香港)。

75. *Polyrhachis dives* H. Smith.

臺灣、支那、シムム、バルマ、マライ半島、印度、
フキリッピン。

76. *Polyrhachis lakoni* Wheeler.

臺灣。

77. *Polyrhachis* sp.

九州(熊本)。

上記目録に挙げたる者の内疑問の者もあれども先輩の記録せる所なれば疑を存して假に採録す、異名は本邦の蟻を記す場合に用ひられし者の主なるものを録せり、従つて異名は是に限られたるにはあらず。

産地は予が有する標本と、記録されたる正確と思はるゝ者とによりて大體に就きて記せり、其の一々の産地を記さずして九州又は本島中部とせるは比較的廣く多く産するを示す者にして詳細は各種の記載を試みる時になさんどす、本邦以外の者は凡て諸家の研究報告によれり。

四、本邦に於ける蟻類の分布

動物分布學上本邦の地は北は舊北州に屬し南は東洋州に入り其間兩者の系種交雜するを以て詳細に是を研究するは興味ある事實に屬す、吾人が蟻を研究するに際して數へたる問題の一は實に是なりとなり、然しながら吾人は本邦各地の蟻を未だ充分に蒐集するの機を有せず、僅少

日本原蟻類に就きて(矢野)

の材料を基礎として次の略説を試みざるを得ざるを悲しむ。

本邦の蟻類を論せしは前に Forel あり後に Wheeler あり、Forel は記して日本群島の蟻類は舊北州系種と印度、馬來區系種の交雜にして後者は其の南部に於て關與する事大なりと云へり、而して附言して其の舊北州系種の二種は新北州系種と關係深しとせり。Wheeler は此に同意を表せり。しかしながら Forel の舉げし二種は北亞米利加之者よりも歐洲産種に近し、然しながら他に三種の舊北邦的なると共に北米的形彩を帶ぶる者ありとせり。然して氏は邦産種を南部亞細亞系、歐羅巴及北部亞細亞系並に日本特色の種にして舊北州系に屬する者の三に分ちて此れを詳論せり、次ぎて臺灣の蟻を記すにあたりて其の全部が印度、馬來區に屬するを説けり。

予の得たる所も大體に於て前説に一致する者なれども、多少深入りして是を記述せん。予は邦産類を舊北州系種と印度、馬來系種の二に大別し更に其の關係せる所に依りて小別す。

甲 舊北州系種。

イ 舊北州産種と同種なるか、又は其の亞種變種にして樺太、北海道及び本島の中部以北の山地に限らるゝ者は、
Ponera conchata, *Myrmecina granicola nipponica*, *Myrmica rubra laeviridis*, *M. rubra lobicornis yessensis*,

日本産蟻類に就きて(矢野)

Formica sanguinea fusciceps, *F. exsecta*, *F. rufa pratensis*, *F. rufa truncicola*, *F. rufa truncicola yessensis*, *Camponotus herculeanus szechuanensis*, 等にして其の多くは歐羅巴より西比利亞を通じて分布する者なり、假令然らざるも其の關係甚だ密接にして變種の關係にて別たる者なり、然して其の南部は本島の中部山地即ち信飛より富士箱根山嶺に限らるゝ者の如し。

○歐洲に産じ本邦にて南九州に及ぶ者には *Tetramorium cespitum*, *Tasius niger*, *Tasius fuliginosus* の三種あり、是れ等三種は一般に其の分布廣き種にして、例へば *Tasius niger* は北部亞米利加、歐羅巴、北部亞弗利加及び亞細亞の大半に産じ、他二種は舊北州の全部に分布する者にして數に於ても甚だ多し。*Tasius* 屬の他の諸種も恐らく本項に屬せしむべき者ならんも產地未だ廣く知られず。即ち本項の種は分布廣くして前者よりも一層南に下れる者なり。

○歐洲に産する者と亞種又は變種の關係を有すれども北海道より九州まで廣く分布する者には *Solenopsis fugax* var., *Cremastogaster sordidula osakensis*, *Formica fusca fusca japonica*, *Camponotus herculeanus japonicus*, *C. herculeanus ligniperdus obscuripes*, *C. marginatus vitiosus*, *C. marginatus quadrinotatus*, *C. marginatus brunni* 等は前二者とは別にして北海道以南にありて特立の亞變種

一八

を形成せる者を見る可し、此の内において *C. herculeanus japonicus* が朝鮮、支那、モンパイン、モンパインに至る迄廣く分布し *F. fusca fusca japonica* は蒙古に於ても見らるる者なり。

○本邦に於て特立の種を形成する者には *Symphicta watasei*, *Pachycondyla japonica*, *P. sauteri*, *Ponera japonica*, *P. sp.*, *Pheidole forvida*, *Cremastogaster laboriosa*, *Stenamma owstoni*, *S. famelicum*, *S. aciculatum*, *Leptothorax congruus*, *L. congruus spinosus*, *Prenolepis flavipes*, *Polyergus* sp. 等あり、此等は多く本島及び九州に現はれ北海道にも産する者は此の内只二種あるのみ、即ち *C. laboriosa*, *L. congruus spinosus* 是なり、即ち此の部の諸種は已に中部日本に介立する者と認むるを得。

然して此の中にありて *S. watasei*, *M. nipponica*, *S. owstoni* は新北州的形彩を帶ぶる者なりと Wheeler の附言せし所の者なり。

乙) 印度、馬來區系種。

○印度、馬來區系種に關係深くして九州以北に見らるる日本特有の種は *Juponera solitaria*, *Pheidole nodus Mononoriuni floricola*, *M. nipponensis*, *M. triviale*, *Cremastogaster* sp., *C. sp.*, *Vollenhovia emeryi*, *Pristomyrmex japonicus*, *Strawigens* sp., *Iridomyrmex itoi*, *Technomyrmex gibbosus*, *T. sp.*, *Camponotus* sp., *Polyrhachis* sp. 等は

九州及び本島中部以南に産するものにして只一の例外は *Pristomyrmex japonicus* の北海道に及ぶなり。而して *Pristomyrmex* sp. は北米的色彩ある者なり。

() 南部亞細亞に産し、九州以北にも現はるる者には、*Lothropella chinensis*, *Strumigenys godeffroi lewisi*, *Polyrhachis lamellidens*, *Camponotus rohneyi* の四種あり、其の北界は前者を略同じく本島中部に及ぶ。

() 臺灣に於てのみ産する種及び變種には *Pheidole sauteri*, *Cremastogaster subnuda formosa*, *Plagiolepis mactavishi*, *Camponotus taylori formosa* あり此等は次の者と共に印度、馬來區系種と認め可き者なり。

() 南部亞細亞より臺灣に涉りて共通の種には *Diacamma rugosum sculphum*, *Pheidole javana*, *Pheidole megacephala*, *Monomorium latinode*, *M. destructor*, *Cremastogaster rogenhoferi*, *Triglyphobranch striaticeps*, *Iridomyrmex glaber*, *Tapinoma melanocephalum*, *Plagiolepis longipes*, *Prenolepis longicornis*, *Camponotus irritans*, *C. doryeus*, *Polyrhachis dives*, *P. lakona*, 等あり、是は純然たる印度、馬來系種なり。

以上記述する所によりて是を見るに日本版圖には南北より舊北州及び印度馬來區の兩系種の蟻類入り來り、南北兩端に於ては大陸と密接なる關係を有し、同種若しくは非常に近き形種によりて聯結せらる、其の内或者は中

日本産蟻類に就きて(矢野)

央部に及ぶと云へども、中央部の蟻類を形成する主要の者は特立の種にして、其の南北兩系の何れかに近縁を有する者なり、南北及中央部の區分は明かならざればも樺太北海道及び本島中央山嶺以北は北部とし本島中部以南九州に至る者を中央部に琉球以南を南部となす事は正當なるに近からん。

中部産種の内新北州の形彩を帶ぶる者あるは明かにして *Strumigenys* sp. の如きは舊北州并に印度馬來區に近似の種を見ず反つて北米所産の種に近縁を見出す者なり若し夫れ九州と臺灣との連鎖たる琉球列島を明かにするを得ば興味ある可く又對馬によりて朝鮮附近の大陸との關係を明かにするも重要な事なる可し然るに不幸にして北支那滿洲朝鮮の蟻類に就ては僅々一二種の記録あるに過ぎず琉球にありては亦全く知られず、只渡瀨教授一行の琉球に福田氏の大島徳之島に予の薩南に得たる標本は此の間の關係を明かにするを得べく追て是を公にするの機ある可し。

(附記) 本邦産蟻類中予の見ざる者甚だ多く普通の種にありても分布區域不明瞭の者多し若し讀者諸君にして蟻類標本を得らるるの機あらば願はくは左記宛を以て惠送の榮を得ん事を、學名は直接御通知致す可し。

(東京府下目黒山林局林業試驗所内 矢野宗幹)